校長通信　向野より

第７号
平成 28 年 10 月６日発行

今年は台風の来襲を心配する回数が多いように思います。学校の方は、期末考査も終わって前期が終了し、折り返し地点となりました。最近、いくつかの会議に参加しましたが、その中で記憶に残るお話をお伝えします。

一つ目は、西濃地区ＰＴＡ研修会の講演会です。講師は、大胡田誠（おおごだ　まこと）さんで、ご職業は弁護士です。大胡田さんは先天性の緑内障で 12 歳の時に両目の視力が全て失われ全盲となられました。弁護士となられた経緯や、どのような心のあり方で過ごし、どんな工夫を重ね仕事をしておられるかなど、ユーモアあふれる語り口でお話しいただきました。

その中で、「諦めなければ夢は必ず叶う」、「もうだめだ、は夢のすぐ前の時間だ」「だから無理より、じゃあどうする」、そして「迷った時は自分が温かいと思った方を選びなさい」といったお話をしていただけました。大変感動しました。

２つ目は、リオデジャネイロオリンピック競泳女子 200 メートル平泳ぎで金メダルを獲得された金藤理絵選手のお話です。私は、たまたま岐阜県民栄誉大賞の授賞式に参加する機会を得て、金藤選手のお話を直接聞くことができました。

金藤選手は、2008 年の北京オリンピックで７位、2012 年のロンドンには出場ができませんでした。しかし、今年のリオオリンピックでは見事、金メダルを獲得されたのです。結果が出ず、辛くて苦しくてもうだめだと思ったことは何度もあったけど、「苦しみの向こうに結果がある」と信じて頑張ったと、言葉を選びながら力強く語られていました。金藤選手の印象は、とても素朴で、その手はとても暖かかったです。また、金メダルにも触れさせていただきましたがずっしりと重かったです。（調べてみましたら、500 グラムもあるそうです）

努力を積み重ね、毎日続ける行動は人に大きな自信を与えます。自信のある人は輝きます。輝き始めた人は楽しくなってもっともっと輝けるように自分で努力をします。

大垣養老高校の西側堤防に「ヒガンバナ」が咲いていました。（写真）お彼岸の頃に咲くためこの名があり、曼珠沙華とも言います。人為的に移植されたものが増え、土手などでよく見られます。全草が有毒ですが、恐慌作物としての役割も持っていたそうです。しかし、私は食べたことはありません。

子どもの頃に、この花を摘んで家に持ち帰ると、祖母から「火事になるから持ってきたらあかん」と叱られたことを思い出しました。

投げかけたものが
返ってくる。
笑顔や明るい言葉を
投げかけた人は
笑顔や明るい言葉に囲まれる。

第７号は、小林正観氏の言葉です。小林氏は、心学、潜在能力の研究家です。

人は、本来、人生を楽しむために生まれてきました。穏やかな価値観で、自らの生活の場を育て、生きていくことも可能であり大切であると考えます。